

「秋葉区里山文化 未来への種」(案)に対する意見概要及び市(秋葉区)の考え方

NO	ページ	ご意見の概要	ご意見に対する区の考え方	修正
1-1	-	今まで秋葉丘陵の開発や観光客の誘致は長年取り組まれているものの、決め手がなく結果が出ていない。4つの柱が示されているが、他の観光地で神社(信仰)が中心となっているところもあることから、言い伝えや由来が多くある秋葉神社をもう1つの柱として加えてはどうか。	4つの柱は具体的行動計画の方向性を示したものであり、地区・方面や名勝などで分類して組み立てたものではないことから、ご提案のような観点から柱を加えることはしません。この計画では13の活動を挙げていますが、既に秋葉丘陵のそれぞれの地域で多数のイベント等の企画が行われています。これらは全てが行政で企画運営されているわけではなく、秋葉丘陵に関連する多種多様な魅力や価値に気付いた人や団体が自主的に企画・運営しているものも多くあります。魅力を伝えたい人たちが自ら企画・運営することも里山の魅力発信の大きな力となりますので、ぜひ、そうした活動にもご参加ください。	なし
2-1	P5~6	「conciierge(コンシェルジュ)」や「SWOT」など外国語や造語が多用され難解である。	「コンシェルジュ」は検討過程で出された意見の一つであり、また「SWOT」は分析手法の一つの名称であり、いずれも検討の過程を示すなかで取り上げたものです。	なし
2-2	P7~8	各施設や会場等への公共交通や駐車場など交通アクセスの拡充および充実と安全な遊歩道の確保についても触れるべき。	本計画を検討するなかで、交通アクセスの確保についての意見は一部ありましたが、これらが里山の利活用全体の共通で喫緊の課題ではないと考えることから、今回の計画では触れないこととします。区が管理する遊歩道については、相応の安全性は確保されていると考えますが、引き続き管理者である秋葉区建設課と連携し、維持・管理に努めます。	なし
2-3	-	訪問者が満足する企画の立案を望む。	訪問者が満足するような企画の立案に努めます。	なし
3-1	-	行動計画もお金を生み出し続けなければ、自然と廃れるもの。行政予算頼みではなく、種を播けば結実するような行動計画も必要ではないか。 例①秋葉公園を分割して指定管理を行い、指定管理者に高い裁量を与える ②福祉作業所との連携でどんぐりなどの里山資源を利用し販売する。 ③JAと連携し、金津地区の遊休農地をUターン者・移住者に貸し出すための里山農業塾を開校する。 ④旅行会社と連携し、アグリツーリズムの開発、グリーンツーリズムの秋葉丘陵版を開発する ⑤薬科大と連携した里山茶の開発	持続可能な仕組みづくりは重要と認識しています。ご提案のような具体的な企画は、今後、「コア組織」やそれぞれの施設・団体に検討していきたいと考えます。	なし

「秋葉区里山文化 未来への種」(案)に対する意見概要及び市(秋葉区)の考え方

NO	ページ	ご意見の概要	ご意見に対する区の考え方	修正
4-1	P9~21	4つの柱に基づく各活動について、どこがリーダーシップをとるのか明示すべき。	この計画による活動全体については、今後立ち上げる「コア組織」の中で進めることとなります。その場で、各活動についてのリーダーが必要だとのご意見があつて、同意を得られれば、そのようにしたいと考えますが、現時点では案のとおりとさせていただきます。	なし
5-1	-	金津地区を中心とした企画が多く、秋葉山周辺の企画が少ないように思う。秋葉山中心の企画等も充実すべき。	この計画は秋葉丘陵全体を対象としたものです。その計画内で13の活動を挙げ、その下に多数の企画等を予定しています。それぞれの地域の魅力が発信されるよう取り組んでいきたいと考えます。	なし
6-1	P4	里山周辺の施設・団体のなかに、金津地域の団体しか書いてないのはいかがなものか。	4ページは、本計画策定に向けた活動当初のイメージを示したもののなので、このままとします。(参考:6-3)	なし
6-2	P8	「菩提寺山登山の拠点として」とあるが、完全に金津の山だけを念頭に置いた記述となっているが、小口から秋葉、小須戸を意識した記述にすべき。	8ページのご指摘の部分は、里山ビジターセンターについて記述したものです。本行動計画自体は秋葉丘陵全体を対象としたものとなっています。	なし
6-3	P10	里山活動団体に新津中央コミ協・東部コミ協・新関コミ協・山の手コミ協を加えるべき。	ご指摘の各コミュニティ協議会へ、「コア組織」への参加をお声掛けする方向で検討したいと思えます。	あり
6-4	P16	トレイルランニングは専門性が高いと思う。裾野を広げるためには、普通の中高年層が気軽に歩けるウォーキングのコースを作るべき。区民の健康寿命をいかに伸ばすかという観点で里山を活用する視点が必要。	16ページのトレイルランニングは、秋葉丘陵で既に行われているスポーツやウォーキングの一例として挙げたものです。参加者が全員中高年層というイベントも数多く実施されています。ご指摘の「健康寿命を伸ばす」も重要な観点と認識しています。	なし
6-5	P18	⑫「まちなかをつなぐ仕掛けづくり」について、「新津丘陵」と「鉄道資料館」を念頭に置いたにぎわいづくりをしなければならない。	秋葉丘陵と新津鉄道資料館のいずれも秋葉区の誇るべき魅力の一つと捉えています。この2つを直接的に結び付けることをクローズアップするよりも、新津鉄道資料館を「まちなか」を構成する要素のひとつと捉え、多種多様な連携を進めていきたいと考えます。	なし
6-6	P12	秋葉公園内の公園管理事務所も活用すべき。	同施設は、公園管理業務に使用しており、一般利用などの予定はありません。	なし
6-8	P21	この施設管理者の中に野外音楽堂や秋葉苑を管理する管理者を入れるべき。また、公園管理事務所の管理者も同様に入れるべき。	野外音楽堂と秋葉苑のいずれも秋葉区建設課が管理者となっており、本計画の策定に参加したほか、これからの「コア組織」にも参加する予定です。なお、秋葉公園管理事務所は、公園管理業務に使用している施設です。ご指摘の21ページの参加団体等一覧は、27年度と28年度にこの計画の検討に参加した団体等を結果として挙げたものであり、これからの参加予定団体等を挙げたものではありません。(参考→6-3)	なし

「秋葉区里山文化 未来への種」(案)に対する意見概要及び市(秋葉区)の考え方

NO	ページ	ご意見の概要	ご意見に対する区の考え方	修正
7-1	-	利用者のニーズは、山菜の採取や植物、鳥、動物の観察、単なる散策、学習など多岐に渡っていて、健康等だけではない。ニーズをさらに明確にしてはどうか。	ご指摘のように、実に多様なニーズがありますが、それらに応える多様なイベントや事業も行われていますし、その多様性もまた秋葉丘陵の魅力のひとつという捉えています。本計画の中でも、ある程度ターゲットやニーズが絞り込まれたものもありますが、計画の中でニーズを列挙するなどして明確にすることは、逆にここで記載されなかったニーズを排除したと捉えられる心配もあるので、ふれないこととします。	なし
7-2	-	若い人が集まるイベントにおけるPRなど、里山の魅力、楽しさを知るきっかけづくりの必要性があるのではないか。	具体的な活動としては、⑬「里山文化のイメージ発信」の一環として検討していきます。	なし
7-3	-	ネットワークを具体的にどう生かすのか述べられていない。	10ページの①「里山活動団体・関連施設等の組織化」において、「コア組織」ともいえる連絡会議がネットワークの根幹を成します。このネットワークの生かし方としては、「里山に関係する施設や団体が、お互い他が何をしているか分からない」という意見が本計画を検討する中でありましたので、この「コア組織」となる会議の下に各団体や施設のイベントや活動内容等の情報を集めることで、お互いの活動状況などを把握し、事業計画に反映させるなどよりよい事業を展開していくとともに、インターネットやガイドブックなどを通じて市民向けにも情報提供を行います。また、⑩「周辺施設をつなぐ仕掛けづくり」や⑫「まちなかをつなぐ仕掛けづくり」もこのネットワークを生かして行うものです。	なし
7-4	-	里山を目玉としてまちなかの活性化を図る。	具体的な活動としては、⑫「まちなかをつなぐ仕掛けづくり」の一環として検討していきます	なし
7-5	-	里山を盛り上げる事業が多いように思う。もう少し絞り込んではどうか。	事業数について言えば、大半が既存の事業となっています。それぞれの施設や団体が既存の事業や活動を継続するなかで、今回の計画を通して新たな魅力が拡大し、事業数が増える可能性も考えられますが、「コア組織」での情報交換を行うなかで、集約・統合・廃止されていくものもあると思われれます。	なし
7-6	P18	⑫「まちなかをつなぐ仕掛けづくり」のスタンプラリーは、受けられるサービスや特典など魅力と価値向上も必要ではないか。	スタンプラリーなどの具体的な内容は、関連する施設や商店街などまちなか側の皆さまと今後協議していきますが、ご指摘のことも念頭に置いて取り組みます。	なし
8-1	-	菩提寺山を中心とした多様な活動趣旨に賛同	ありがとうございます。	なし
8-2	-	ミュージアム構想はスケールが大きすぎて意見がまとまらないのではないか。	ご指摘の部分が2ページの記述「里山文化ミュージアム」であるならば、これは計画当初のアイデア出しの一例として挙げられたものですが、その後の検討の中では挙げられなかったこともあり、今回の計画案本体には入っていません。2ページの図の見出しをく他計画との関連及び「未来への種」デザインプロジェクト当初の構想>改めます。	あり

「秋葉区里山文化 未来への種」(案)に対する意見概要及び市(秋葉区)の考え方

NO	ページ	ご意見の概要	ご意見に対する区の考え方	修正
8-3	-	遊歩道の整備(ベンチ設置・草花植栽・階段改善・伐開)をすべき。	遊歩道の維持・管理については、里山活動団体をはじめとして、多くの市民の方々からご協力をいただき、ありがとうございます。遊歩道の管理者である秋葉区建設課と協議しながら維持管理をしていきます。	なし
8-4	-	遊歩道の整備のための保険と用具の補助をすべき。	用具や資材の調達の一部など、里山活動団体への支援は従来どおり継続します。産業振興課いきいき里山室または建設課維持係公園担当へご相談ください。	なし
8-5	-	木工・竹クラフト等体験を通じ里山への親しみの醸成をはかるべき。	この計画では13の活動を挙げていますが、既に秋葉丘陵のそれぞれの地域で多数のイベント等の企画が行われています。これらは全てが行政で企画運営されているわけではなく、秋葉丘陵に関連する多種多様な魅力や価値に気付いた人や団体が自主的に企画・運営しているものも多くあります。それらの企画等を多くの人に知っていただき、ご参加いただけるよう、情報の集約と発信に努めます。	なし
8-6	-	季節ごとの自然観察会を実施してはどうか。	この計画では13の活動を挙げていますが、既に秋葉丘陵のそれぞれの地域で多数のイベント等の企画が行われています。これらは全てが行政で企画運営されているわけではなく、秋葉丘陵に関連する多種多様な魅力や価値に気付いた人や団体が自主的に企画・運営しているものも多くあります。それらの企画等を多くの人に知っていただき、ご参加いただけるよう、情報の集約と発信に努めます。	なし
8-7	-	秋葉丘陵でもクマが出没する頻度が増加していることから、里山利用人口が増えれば、クマとの遭遇が増え軋轢が生まれることが予想される。野生動植物との共存も視野に入れたデザインとしてはどうか。	動植物との共存については、本計画では触れませんが、安全確保は重要な問題ですので注意やマナー向上の呼び掛けを行っていきます。	なし
8-8	-	「里山文化」の十分な定義説明と文章のスリム化をしてはどうか。	7ページに初めて「里山文化」の説明が出ていたものを、1ページの「はじめに」で触れることとしました。	あり

「秋葉区里山文化 未来への種」(案)に対する意見概要及び市(秋葉区)の考え方

NO	ページ	ご意見の概要	ご意見に対する区の考え方	修正
8-9	-	里山文化の啓蒙よりも、隣接市町(五泉市・田上町)との連携・協働して遊歩道や石油文化遺産の整備と森林整備などのハード整備を優先すべき。	秋葉区内の遊歩道については、里山活動団体をはじめとして、多くの市民の方々からご協力をいただき、ありがとうございます。遊歩道の管理者である秋葉区建設課と協議しながら維持管理をしていきます。石油文化遺産については、国の史跡指定を目指して現在調査を進めており、整備は指定を受けた後の検討となります。また、森林整備は、遊歩道の周辺の市有林の間伐等を行い、明るい森づくりを行うとともに、大半を占める個人所有林については、多大な費用がかかる間伐の補助に向けて取り組んでいます。 なお、五泉市と田上町とは、平成29年度から広域的な連携の中で菩提寺山・高立山・護摩堂山一帯のエリアの観光情報発信等に連携して取り組みを始める予定です。	なし
8-10	-	マウンテンプレパーク利用者が固定化しないよう取り計らってもらいたい。	継続的な利用にむしろ感謝しています。現状では、受け入れ状況には余裕があり、常連客が新規客を排他しているようなことはないと思います。 一方、より多くの人にプレーパークを知っていただき、ここをきっかけに里山への理解と関心を深めていただけるよう周知・広報等に努めます。	なし
8-11	-	5W2Hで明記された具体策と数値化を盛り込んだ計画とすべきではないか。	本計画は、多数の施設や団体などが一緒に取り組むものであることから、詳細については、「コア組織」を立ち上げ、実施しながら決めていく部分が少なからずあります。そのようなことから、こうしたかたちでの策定とします。	なし